

【石川県野々市市】行政と市内の大学生グループの連携による地域の強靱化

【ポイント】

- ✓ 野々市市では従来から市内に立地する大学の学生も巻き込み、地域・行政が協力した防災教育の取組が進められていたが、地域計画策定過程における脆弱性評価の結果、市民の自主防災意識の向上のために防災教育を今まで以上に推進する必要性が顕在化
- ✓ 市の「高齢化率が県内でも低く、市内に大学が立地している」という地域特性を踏まえ、学生・若者が防災教育分野をはじめ地域で活躍する担い手となることを目指し、学生等との連携強化を地域計画に明記
- ✓ これにより地域の強靱化への若者・学生の参画の重要性を対外的にも明確に打ち出し、学生等との連携や地域の防災力向上を促進

1. 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- 従前より、市内に立地している金沢工業大学の学生主体による団体「防災・減災プロジェクトSoRA」（以下「SoRA」という。）と地域や行政が連携して防災教育の取組を行っていたが、地域計画において若者を強靱化の重要な担い手としていく旨を打ち出し、その連携を更に強化することとした。

2. 取組の内容

- 市が実施する防災教育・防災訓練等においてSoRAが連携・参加しているほか、SoRAは主体的に以下の取組を行っている。
- 防災イベント等に対するSoRA側からの企画提案の内容を盛り込むなど、単に行政を補完するという位置付けではなく、地域の防災力を向上（＝強靱化）させる主体的な担い手として活動している。

【SoRAが主体的に行っている取組例】

- 金沢工業大学拠点避難区の3つの町内会と協力した夜回りの実施
- 市内小学校（5校）において、遊びながら学ぶことができるゲーム形式等を取り入れた防災教室の実施

【SoRAと市と連携して行っている取組例】

- 市の総合防災訓練における避難所開設訓練の実施
- 拠点避難区防災会への参加及び防災訓練の企画
- 防災士会研修会における説明補助

- 市の防災啓発動画及びチラシの作成協力
- 防災イベントの運営・企画

(SoRAによる小学校での防災教室) (ののいち湯気市※での出展ブース)



※一般社団法人野々市市観光物産協会が主催し、IKERU NONOICHI 実行委員会及び野々市市が共催として開催された防災イベント (R4.11)

3. 本取組と地域計画の関係及び取組の効果等

【地域計画における記載】

- SoRAと市・関係団体との連携による地域の防災・減災に関する取組は、地域計画策定以前から行われていた。
- 更に、市内に大学を有する当市の特徴を踏まえ、防災教育の担い手としての若者の活躍による更なる地域の強靱化を目指し、地域計画の基本的な方針として「高齢化率が県内でも低い本市において、強靱化を推進する担い手が適切に活動できる環境づくりに努めるとともに、若者を含めた強靱化を推進する担い手を確保する。」(P.2) 旨を記載した。
- また、リスクコミュニケーション及び人材育成に向けた推進方針として、「地域の防災力を高めるため、地域住民の自助・共助の知識の普及・啓発に併せて、防災士のスキルアップ並びに学生等幅広い年齢層及び女性も含めた災害ボランティア等の確保のための取組を実施する。」(P.17・18) 旨を記載している。

【取組の効果等】

- 学生が防災活動に率先して取り組むことにより、地域住民の防災意識が向上し、防災活動が活発化した町内会も見られるほか、防災訓練の企画・運営に学生が参画することで新たな視点が入り入れられ、新しい取組(若者や女性視点での避難所運営など)が行われた地域もある。

地域計画の記載を以て、直ちに学生・若者の担い手が増えるわけではないが、地域の強靱化の大方針である地域計画に記載することで、本市としての連携強化の意識を対外的にも明確に打ち出すことができ、SoRAを中心に学生等との連携を促進することができる。

4. 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- 若者の参画によって訓練に非常に活気が生まれ、これに参加したことで防災への意識が高まった。（住民）
- 大学生が日頃から取り組むことにより、地域住民と顔の見える関係の構築が進み、防災以外の面においても町内会のバーベキューや運動会等の地域行事に呼ばれるようになるなど、地域活動の活発化や学生の当市への愛着心向上（定住に向けた取組）にも繋がっている。（庁内職員）
- 他市からの視察等がある取組となっており、また市内外の団体から大学生と連携した事業を行いたいとの要望がある。（庁内職員）

5. 今後の展開予定

- 市民向け防災講座の実施や啓発動画及びチラシの作成などを、引き続きSoRAと市で協力して実施していく。
- 各取組へ学生視点を積極的に取り入れることで、若者への訴求効果の高いイベント等を追求し、若者世代の担い手拡大を図っていく。